

事例11

< 事例概要 >

- ・ 50 歳代の患者。高度の貧血で出血源の検索のため、夜間に他院より救急外来へ転送され、救急受診。
- ・ 担当医師は下血の出血源の精査目的で胸腹部単純CT 依頼。
- ・ 担当医師と消化器内科医師が画像を確認。CT では明らかな出血源を認めず、入院して精査を行ったが、出血の原因は不明のまま、貧血が改善したため退院。
- ・ 退院 7 か月後に全身倦怠感と頻尿のため救急外来受診。腹部単純CT でS 状結腸癌および膀胱浸潤の可能性を指摘され入院。初回画像検査から約 2 年後に死亡。
- ・ 死因はS 状結腸癌の肝・肺多発転移。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖 有。
- ・ 初回CT の画像診断報告書は 4 日後に作成された。報告書ではS 状結腸癌の可能性が記載されていたが、救急外来で担当した医師は、依頼した画像検査に画像診断報告書があることを認識していなかった。